

## 自然保護は地球の未来への責任

自然保護は、ひとりひとりの人間の自覚ももちろんですが、もっと総合的な立場ですすめていくことも重要です。日本と、アメリカ・ソ連・オーストラリアの国々と結ばれた、いわゆる『渡り鳥条約』や、ガン・カモ・シギ・チドリの生息地である湿地を保護しようという『ラムサール条約』は、多くの国々の参加によって、全地球的に自然保護や野鳥保護をすすめています。このうち日本で実効のあるのは、調印と批准(国として最終的な確認の手続きをすること)がすんでいる日米渡り鳥条約だけです。ほかの渡り鳥条約は批准がないまま5年目を迎えています。

ラムサール条約については、調印さえもされていません。ある外国人は世界でも最も湿地の保護が必要な国としてニッポンをあげました。現実に、生息地の保護まではっきりうたった日米渡り鳥条約が実効しているにもかかわらず、干潟は埋め立てられ、保護区の設定も立ち遅れているのは残念でなりません。

たしかに、加盟にあたっては、条約受け入れについての国内体制をととのえたり、関連する法律を定めたりしなければならないなど、遅れの理由はいろいろあるでしょう。しかし、タンチョウやシギ、チドリなどの水辺の鳥をはじめ、野生生物たちの棲む環境が、いまのような状態にあるかを考えるならば、日本は、先頭に立ってこれらの条約を批准し、そして加盟すべきではないでしょうか。政治的に見れば、もっと大切な国際条約があるかも知れませんが、国際的な義務としては、日本も同じ責任を負っているはずです。自然保護の責任は、人間の未来への責任でもあるのですから。



ヒトの心の中に「トリの保護区」を

財団法人日本鳥類保護連盟  
サントリー株式会社

この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、サントリー株式会社がシリーズとして制作、次の各紙に月1回、掲載しているものです。ご愛読ください。朝日・毎日・読売・サンケイ・中日・中国・山梨日日・北海道・西日本・下野

## トリからのメッセージ⑥

53.9A-SA06

63

キアシシギ(シギ科)  
全長約26cm強。春と秋に渡って来て、  
海岸の干潟や河原、水田、磯などでエサをとる旅鳥。  
ピューイときこえる特徴のある鳴き声。  
ピューイ、ピューイ、ピュイ、ビビビビビ…と続けるものもある。

マダラシギ

チユウシャクシギ(シギ科)  
全長約42cm。ハトより大きい。春秋に渡来する旅鳥。  
海岸や河口部の干潟のほか、広い河原や水田、磯、広い草地にやってくる。  
ボイビビビビビと、絞ける鳴き声。  
遠距離を飛ぶときは編隊をつくる。

# 自然保護と 日本の責任